

# 議会報告

## ▶実現・解決しました

**救急隊員・消防職員が足りない！（20200923）**  
現在の職員数は1398人、欠員が26人という現状。有事が常態化している昨今、危機事象対応力として職員定数を増やすべき！  
**その後→ 令和3年度から定数が増える！9人を増員する。職員定数条例改正の議案が出ました！**

**小中学校の水が危ない！（20200923）**  
・水道法の一部改正を教育委員会が読み違え、貯水槽の清掃を半年伸ばしたことで、市内全ての学校における清掃が法定で定める1年以内に実施できなかった。民間ならば保健所からの指導対象。教育委員会の落ち度は言うまでもなく猛省を求める。今後の対応、再発防止策は？  
**教育委員会事務局：今回の対応は不適切。仕様を検討する際、関係機関に確認を行うなど、慎重に対応すべきと反省。清掃については現地調査等を行っており10月から作業を開始する。再発防止策について、関係法令の認識不足に起因するので、組織として危機管理能力の向上と、関係機関とも連携調整しながら、早期に準備を行い着実な対応を図る。**  
  
・子どもたちの命・健康を守るということを最優先にすれば仕様を半年先に延ばすことはありえない。当たり前のことをしてほしいと指摘。

**インフラのトリアージについて（20201217）**  
・笹子トンネルの崩落事故から8年。老朽化インフラの管理ルールによると、5年以内に修繕すべき橋梁は、ガス橋、大師橋、岡上跨線橋など29橋。修繕の現況と今後は？施設、インフラを造れば管理は永遠。老朽化に伴い費用も年々かさむ。今後の道路インフラ維持にかかる費用は？インフラの優先順位を決めるべき！  
**建設緑政局長：5年以内に措置を講ずべき29橋のうち、20橋の修繕に着手、8橋が完了。ガス橋も修繕に向け取り組む。維持管理の概算費用は、橋梁：60年間で約270億円。トンネル、ボックスカルバート、横断歩道橋、門型標識、道路擁壁などが60年間で約210億円。維持管理における優先順位については、損傷の程度や重要性などに応じ優先順位をつけ実施。**

・トリアージとは、切迫した状況でいかに命を生かすかという手法。川崎市は収支不足307億円。財政は切迫している。既存施設へのランニングコスト、そして新たな事業への初期投資費用及びランニングコストをどう取捨選択していくか、市長の言葉である「スクラップ・アンド・スクラップ・アンド・ビルド」を聖域なく実践すべき。

**特別支援と幼保連携の取組について（20201217）**  
・発達障害と呼ばれる子どもたちが年々増えている。特別支援の目的とは何か。障害なのか、個性、才能なのか、捉え方で支援の在り方とその子の将来が全く変わる。誰一人取り残さないSDGsの理念から言えば当然、後者だが見解は？幼児教育における特別支援は特に重要であり、手当てすべき！  
**こども未来局長：子ども一人一人の持てる能力や可能性を伸ばし、できる限り身近な地域で様々な子どもと触れ合いながら育ていけるようにすることが大切。近年、特別な支援を必要とする子どもが増加する傾向にあり、今後も、幼児教育の充実と振興に向けた支援に努める。**  
**その後→ 令和3年度予算に増額計上**  
・小規模保育園では3歳児の受入先を見つけるのが困難な状況。一方、幼稚園では年々入園者が減っている。マッチングの促進をはかり、幼稚園選択のハードルとなる保護者の費用負担軽減を打ち出すべき！！  
**こども未来局長：幼児教育・保育の質の維持向上が求められている中、良好な教育環境にある幼稚園が安定的な運営を継続することは重要。幼稚園が長時間の預かり保育を実施し、保育需要に対応することは有効。幼稚園が就労家庭のニーズに応じた選択肢の一つとなるよう、小規模保育事業等卒園児の受入れのさらなる促進に向けて検討する。**  
・幼稚園、保育園双方にとって非常に有益な政策であり、教育環境の保全と未来への投資。是非実現を。

**その後→ 令和3年度予算に新規計上！**

**自立支援センターにおける医療的配慮について（20201217）**  
※自立支援センターとは 住居・仕事に困っているが就労の意欲と能力がある方に対して、就職に向けた支援を行なう施設。川崎自立支援センター（川崎区日進町）

様々な角度から複数回聞き取りをした結果、課題として入所者の医療的配慮についてさらにきめ細かく行う必要があることが判明。非常勤看護師と情報共有し、医療指導や退所の判断等に役立てることができないのか。早急な改善を求める！  
**健康福祉局長：入所者の健康状態等の把握は大変重要。入所者に対する適切な支援のためには、職員及び関係機関における病状等の共有が重要。入所者の状態に応じたよりきめ細やかな支援を実施する。**

・自立支援センターは様々な問題を抱える方の最後のとりで。コロナ下においてその役割はさら大きくなる。さらなる福祉の向上を要望！

**命を守る対策について（20200923）**  
全国における2020年8月の自殺者は、前年同月に比べ15.3%増加。SNSのチャットで24時間365日相談可能な「あなたのいばしょ」との連携を！  
**健康福祉局：相談者の希望する方法が選択できるよう「あなたのいばしょ」も含め、厚生労働省支援情報検索サイトとホームページをリンクさせる。**



2021 Vol.21 ecoako

# 吉沢章子通信

<http://yoshizawa-akiko.jp> 川崎市議会議員 一級建築士

無所属

## ごあいさつ

皆さまこんにちは。吉沢章子です。  
コロナ下の不自由な生活が続いていますが、お元気でいらっしゃいますか。  
「新しい生活様式」へのご協力を頂き心より感謝いたします。皆さまのおかげで川崎市は感染爆発に至らず持ちこたえておりますが、長引く自粛生活の中で不安を抱え、お辛い方も多くいらっしゃると存じます。こまった時の相談窓口について下記にまとめましたので、どうぞお気軽にご利用ください。また、前号に引き続き、危機事象特集として市立病院やコロナ対策について、現場の声をもとにした政策提言をお伝えします。あわせて多摩区のまちづくりをはじめ、議会での活動をご報告させていただきますので、ご一読頂けましたら幸いです。  
今年「希望を持って、一步一步」との思いを込めて、年初に書く漢字は「歩」といたしました。ご意見やご相談などございましたら、ご遠慮なく吉沢までお寄せ下さい。どうかくれぐれもご自愛いただきますように。



## 困ったときに・・・ 一人で悩まず、自分にあった場所をみつけて相談してみてください

**川崎市の取り組み**

- かわさきだいJOBセンター 044-245-5120 (月～金10:00～18:00)  
仕事や生活に関する様々な課題(滞納・借金・家計管理・住まい・健康等)に関する無料の相談窓口。生活保護を受けていない方であればどなたでもご利用いただけます。
- このころの電話相談(川崎市精神保健福祉センター) 044-246-6742(月～金9:00～21:00)  
日常生活や仕事など様々なことで不安や悩みを感じることは自然なことです。誰かと話したりすることも気持ちを楽にするための方法のひとつです。つらいときはひとりで抱え込まず相談窓口にご相談してみませんか？
- 川崎いのちの電話 044-733-4343(24時間 365日)(一般社団法人)  
不安や悩みがある人の匿名による電話相談を24時間対応で実施しています。(時間帯によってはつながりにくい場合もあります)
- あなたのいばしょ(前回の新聞より再度掲載)  
24時間誰でもチャットで相談できます。一人で抱えず気軽にチャットで相談してください。



<https://talkme.jp>

- 多摩区の取り組み ■多摩区地域みまもり支援センター 044-935-3324 平日8:30～17:00(祝日、年末年始を除く)
- 厚生労働省の取り組み ■まもろうよこころ <https://www.mhlw.go.jp/mamorouyokokoro> または【厚生労働省まもろうよこころ】で検索
- 神奈川県取り組み ■心と身体の悩み 神奈川県ホームページ <http://www.pref.kanagawa.jp/docs/nf5/cnt/f123456/top.html>

## 吉沢章子プロフィール

- S39年 3月14日多摩区に生まれる
- S59年 菊竹清訓建築設計事務所 勤務
- H08年 吉沢章子建築設計事務所 開所
- H15年 川崎市議会議員 初当選
- H29年 川崎市長選挙 出馬
- R01年 川崎市議会議員 5期目当選
- 趣味 サッカー ドライブ 絵を画く 詩を描く 歌を詠む

## 吉沢章子事務所

214 - 0014  
川崎市多摩区登戸1531 エスポワール II 103  
TEL 044-933-8018 FAX 044-933-8032



FaceBook  
吉沢章子

Youtube  
@あつこチャンネル



# 特集・危機事象対策「命のとりで・市立病院」

～コロナ対策・災害対策など～

## 市立3病院・川崎病院・井田病院・多摩病院とは？

**◆多摩病院**  
〔北部地域の中核病院〕  
・高度・特殊・急性期医療  
・小児救急 ・二次救急医療  
・災害拠点病院 ・DMAT指定病院  
・地域医療支援病院

**◆井田病院**  
〔南部地域の中核病院〕  
・がん等の高度・特殊医療  
・二次救急医療  
・結核医療・緩和ケア・在宅医療  
・地域がん診療連携拠点病院  
・神奈川県災害協力病院  
・在宅療養後方支援病院

**◆川崎病院**  
〔市の基幹病院〕  
・高度・特殊・急性期医療  
・救命救急センター ・地域周産期母子医療センター  
・小児救急 ・精神科救急医療 ・感染症医療  
・災害拠点病院 ・DMAT指定病院 ・地域医療支援病院  
・神奈川県がん診療連携指定病院

	川崎病院	井田病院	多摩病院
病床数	713 一般:663 精神:38 感染:12	383 一般:343 結核:40	376 一般:376
コロナ患者 対応病床数 (2021年2月1日現在)	40 重症:13 中等症:27	56 中等症:56	30 中等症:30
コロナ関連患者 受入数(人) (2020年12月31日現在)	359 重症:49	391	368

市立3病院のコロナ対応状況

## 水害に強い井田病院を災害拠点病院へ！ 20200923

### ※災害拠点病院とは？

災害時にその地域の医療の要となる病院。神奈川県が指定。川崎市には現在6箇所。しかし6つのうち5箇所が浸水想定地域にあることを吉沢が指摘。様々な改善を求めています。



病院名	病床数	浸水しない
聖マリアンナ医科大学病院	1208	○
帝京大学医学部附属溝口病院	400	×
川崎市立多摩病院	376	×
川崎市立川崎病院	713	×
関東労災病院	610	×
日本医科大学武蔵小杉病院	372	×

・井田病院は高台にあり水害に強い。災害拠点病院の諸条件はクリアしている。風水害に弱い川崎市の災害拠点病院に早急に指定するよう県に働きかけるべき！

健康福祉局：災害ごとに優位性を発揮する病院の立地条件等は違う。新たな災害拠点病院の指定について、指定権限を有する神奈川県と協議を進める。

その後→吉沢の発案で、健康福祉委員会から「市立井田病院の災害拠点病院への早急な指定を求める意見書」を本会議に提出→全会一致で可決され、神奈川県に提出。→指定される見通し。

## 多摩病院の水害対策を！ 20200923

・多摩病院も浸水想定地域内にある。水害対策は？

病院局：非常用発電機に燃料を送るポンプを耐水性の高いものに変え、制御盤を3階に移すための設計を進めており、令和3年度に改修工事を実施する。水害に備えたタイムラインや防災計画の見直しを進める。

## 市立病院の「存続」が命のとりでを守る 20200923

### ①多摩病院の課題と今後について

川崎市初の「病院の指定管理」から14年。指定期間30年の折り返しを迎えた。現在までの良い点・悪い点、総括と今後は？

病院局：良い点→①北部地域における救急医療の充実②地域の医療機関との連携強化③指定管理者の聖マリアンナ医科大学附属病院が近くにあり、危機事象における医療のすみ分け、連携がしやすい。

悪い点→①職員の接遇②診療の案内や説明情報の不適切などに電話・手紙での御意見・苦情がある。

課題を共有し、患者サービス向上に努めるよう指導する。

多摩病院の今後について、指定管理者制度を導入している他の病院の指定期間終了に向けた取組状況等を調査する。

→経営形態を含め徹底した調査を要望。敷地が狭く、改築や災害対策も困難。知恵を絞って課題解決を全力でと指摘。

### ②患者満足度調査による経営改善を

・評価が低いのが「入院時の食事」。多摩病院では満足度50.3%。改善すべきだが？

病院局：食材や献立の見直しなど改善に努めた結果、川崎病院・井田病院で満足度が改善。市立3病院間で情報共有しながら、患者満足度の向上に努める。

・評価が高いのが「医師・看護師」。ダ・ピンチ（手術支援ロボット）を使いこなせる数少ない名医など、市立病院にはかなりの名医がいる。セールスポイントである医師を可能な限り広報すべきだが？

病院局：医師による市民公開講座の動画による配信を開始。ホームページや動画配信等も積極的に活用しながら広報に努める。

### ③井田病院の可能性について

・コロナ後も感染症は人類が向き合わざるを得ない大きな課題。感染症対策病院としての可能性は？

病院局：結核病床40床は現在コロナ専用病棟として一時的に運用中。今後、感染症対策における国や県の動向を注視したい。

・「在宅療養後方支援病院」として、緩和ケア病床を持ち、ターミナルケア、終末期医療などのノウハウを蓄積している。今後、もニーズが拡大される分野。市民への安定した医療提供を要望。

## コロナと闘う現場への支援を！ 20201217

### ①実現すれば日本初。全病棟をビジネスホテル並みのWi-Fi環境に！

その後→多摩病院：3月に全室Wi-Fi整備完了。川崎病院：コロナ病棟整備中。他も拡大予定。井田病院：整形外科・コロナ・緩和ケア病棟は整備済。拡大検討中

### ②コロナ病棟へ清掃員を！就労支援と一石二鳥で。

看護師が清掃を担っている。雇止めなど市民の現場も経済的にひっ迫しているのが就労支援としてのマッチングや異業種連携を図るべき！

病院局長：対応可能な市内の団体と調整中。マッチングも検討する。

その後→多摩病院：3月から清掃業者が入る。川崎病院：一部補助あり。拡充検討。井田病院：検討中

### ③看護師さんに休暇を！

複数の病院で連携、順番に休暇を取ることを提案。さらに休床補償も活用すれば可能になる！

健康福祉局長：特定の病院に負担がかからないよう、市内医療機関で役割分担し、国の休床補償の活用も呼びかけ、コロナ治療に関わる医療従事者等の勤務環境や福利厚生改善向上に取り組む。

### ④応援をかたちに！

「応援は力になる」とのこと。横断幕・バナーフラッグなどを主要駅に展開してはどうか？

医療従事者への感謝と市民の感染対策への意識啓発にもなる？

健康福祉局長：関係局と連携して検討したい。

## 病院局への提言 20200923

・南部医療圏の3病院は全て浸水想定地域内というハイリスクな状況。各医療機関が出来る事、出来ない事ははっきりさせ、その上で分担と連携を考え、早急な災害時の医療体制の抜本的な見直しを急務と指摘！

・コロナ下で、公立病院の重要性は再認識されたが、同時に今後さらに厳しい経営が予測される。強みを徹底して活かし、それを広め「選んでもらう」ことで経営改善につなげるべきと指摘。

・事務部門の不祥事も相次いでいる。病院は命を預ける場所。最後のとりでとしてふさわしい人であり施設であることを再度、肝に銘じ最善を尽くしていただきたい、と病院局長へ要望。

## コロナ下の災害→「D-MATが来ない。行けない」を、次の質問へ

コロナ下では医療従事者も病床も全く余裕がなく、ここで災害が起きたら、災害時医療派遣チームD-MATは全国的に組織できない。川崎市もしかり。この事実気付いたので、次回の議会で質問・議論してゆきます。



百聞は一見に如かず。有事下における多摩病院・井田病院などの現場へ伺い、そのお声から提言！



多摩病院視察



多摩病院視察